

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570400335		
法人名	医療法人 和真会		
事業所名	グループホーム わかば	ユニット名	わかば
所在地	宮崎県日南市上平野町二丁目8-20		
自己評価作成日	平成30年1月8日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=4570400335-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の一角に施設があります。当苑の近くの川にはスッポンが顔を出し、道沿いには春になると桜が立ち並び、保育園児が元気に過ごしている様を感じながら、毎日の生活を楽しています。日常的な買物や希望に応じた観光、外食を通じて地域住民と交流することで多くの笑顔が観られています。当苑には畑があり旬の野菜を栽培し、収穫・選別・洗浄・調理に至るまで利用者様に関わっていただき、無農薬野菜による安心・安全なあたたかい季節感のある料理を提供しています。油津港が近くにある事で新鮮な魚が入手できる為、献立に刺身等の生ものも取り入れ食の楽しみを大切にしています。医療法人和真会が母体であり、毎日の健康管理を24時間体制でサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は法人母体の医療機関と隣接した住宅地に立地している。近隣は河川や緑地も多く、散歩をはじめ買い物や日常的な外出の支援に取り組んでおり、家族の協力も得ながら、なじみの環境との関わりの継続に努めている。近隣住民や自治会との協力も十分に図れており、避難訓練を一緒に行うことや学生の実習受け入れなど地域密着型施設としての機能を果たしている。また、施設内でも利用者の個々の能力に合わせた調理作業などの取組や余暇活動の充実により心身共に安心して落ち着いた生活が送れるように支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかば独自の理念を掲げており、ミーティング、朝夕の申し送りや理念を唱和し、意義を振り返り、理解を深めるように努めている。	常に職員が目を通す申し送りのファイルに理念を掲載している。朝夕の申し送りや理念を唱和し、利用者のケアや地域との交流にその内容を反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買物、外食、希望に応じた観光や保育園児との触れ合い、職場研修、学生の職場体験、県立日南病院看護師実習受入等を通して交流をしている。	日常的に散歩、日用品の買物等の外出がなされている。利用者の希望に応じ、外出の時間も調整されている。研修の受け入れや地域住民参加での避難訓練なども実施されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に理解していただく為に、町内会総会で認知症の理解や接し方を伝えている。回覧板にわかば通信を入れ活動状況を見ていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長寿課、地域包括支援センター、民生委員、近隣住民、利用者家族、利用者等が参加して定期的に開催している。参加者様と意見交換を行いながら、サービスの向上に努めている。	行政・地域包括支援センター・利用者や家族・近隣住民等が運営推進会議に参加して建設的な意見交換が行われている。その内容を災害時の対応や利用者のケアに反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新手続き、事故報告書、苦情等の相談を行い、意見や提案をいただき連携が図られている。	介護保険申請の代行をはじめ、その都度行政と連絡をとる体制が整っている。行政の窓口を訪問するだけでなく、各種通信手段をもって迅速に連絡が取れる体制となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠時間を設定しており、それ以外の時間は解放している。身体拘束委員会を設けており、拘束しないケアを支援している。	月1回の職員ミーティングでの身体拘束の勉強会をはじめ、外部の研修にも参加しており、施錠やスピーチロックなど身体拘束についての知識を熟知し、ケアにも反映させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行っている。職員がストレスを溜めないよう、コミュニケーションをこまめにとっている。			

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者はいないが、いつでも活用できるように、情報収集している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約説明書、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し理解、納得した上で契約を行っている。また、改定時も書類に基づき丁寧に説明し承諾を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日常会話の中、家族は家族会や面会、電話、メール等で意見要望を言われ、伝えやすい環境を作っている。外部にはホームページ、回覧板で伝えている。		年1回の家族会以外にも常時家族との連携が図れている。家族からの要望等は改善後、ホームページや回覧板に掲載し、遠方の家族や近隣住民にも周知がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。代表者と旅行年1回、食事会年3~4回を行っており、職員の声が聴ける機会を設けている。		管理者をはじめ、法人代表とも報告・連絡・相談の意思の疎通ができています。職員が常に職務での疑問や改善案を、その都度管理者に相談しやすい体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の要件、力量に応じて勤務表を作成し働きやすい環境作りを行っている。日頃の努力を把握し、処遇への反映を行っている。子育て中の職員にとって働きやすい環境である。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に勉強会を行ったり、外部の研修に参加している。外部研修後は参加者が主となり苑内で勉強会を行い、他職員も情報共有できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各会の勉強会に参加し交流を深め、情報交換を行い、サービスの質の向上につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所するまでに数回訪問し、本人、家族からの不安・要望を聴き、安心された上で入所していただいている。入所後も心身の状態や思いを受け止める努力をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・見学に来られた際、思いや不安等に耳を傾けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所ケアマネジャー・地域包括支援センターと連携を行い、他サービスの利用を含めた対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの役割を尊重し、共に支え合う環境作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、馴染みの美容室、墓参りの時は出来る限りご家族の支援をもらっている。利用者の状態や気になる事等は、すぐ家族に連絡を取っている。帰宅・外泊・旅行時も家族の支援をもらっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、商店、墓参り、外食等積極的に出かけており、行先で知人に会う事で笑顔につながっている。年賀状、手紙の支援を行っている。	日常的な買い物や散歩ではなじみの人との交流もある。その他家族の協力を得ながら、先祖の墓参りや外出によりなじみの環境との関係継続を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や状況にあった過ごし方を把握し、職員が間に入り会話をすることで孤立しないような支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も経過を見守り、面会に行っている。葬式、年忌とり時は利用者が作った物を持参し、お線香あげに行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話、表情、しぐさ等を通じて本人の思いの把握に努めている。朝夕申し送り時、共有を図っている。	アセスメントはセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を一部使用している。その他日常的に様子観察を密に行うことで、表情や会話の中から利用者の心理状況の把握や対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面会し本人や家族の生活歴・馴染みの暮らし方を聴き、情報を得ている。サービス事業者やケアマネジャーからも情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕血圧測定・排便状況・経過記録を基に申し送り情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族から要望を聴きとり、職員の意見等も反映させ作成している。状態に応じて随時、介護計画の見直しをしている。	利用者や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞いている。担当制で各職員がモニタリングを行った後、職員会議で全職員が意見を出し合っ、現状に即した介護計画の作成やケアの質の向上に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日誌に日々の様子を記録し、その都度ミーティングを行い、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して応えられるように、人員配置や業務時間・内容を変更し柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのお店でランチ、職員と共に長寿課に行き書類提出、郵便局に葉書や手紙を投函、学生、社会人の実習受け入れ等地域資源を把握し活用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の受診状況を十分に把握し、本人・家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。協力医療機関に変更になった場合、診療内容を丁寧に説明し、書類にて同意を得ている。		併設の医療機関の医師の往診や看護師の訪問により健康管理を継続している。家族の協力を得ながら専門医への受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1協力医療機関から看護師が来苑。情報提供後、身体をチェックを行い適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院前医療機関と連絡を取り合ったり、病院へ出向き、情報収集を行っている。入院・退院計画等について情報提供があり、スムーズな支援ができています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応や看取りに関する指針を利用者、家族に十分に説明を行い、同意を得ている。身体の変化に応じてその都度家族と十分に話し合い、意向を確認している。		入居時に看取りの指針の説明などを十分に行っている。年に1回は家族と現状を踏まえ、医療や看取りに関する意向確認を行い、利用者・家族が安心して終末期を迎えられるように支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、職員が目を通しやすい場所に置いている。ミーティングで初期対応の訓練を行い実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月19日レクリエーションで避難訓練、年2回は運営推進会議の際に夜間を想定した避難訓練(火災、津波)や消火訓練、通報訓練を実施している。訓練には近隣住民、消防署、消防団、民生委員に参加していただいている。		年2回の避難訓練以外に、毎月自主避難訓練を実施している。近隣に数か所避難場所を確保するほか、運営推進会議での意見などを反映させ、緊急時の食材の備蓄なども確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、居室入室、排泄、入浴時等の日常ケアに際して、尊厳やプライドを損ねる様な声掛けや対応を行わないようにしている。		入浴や排せつや接遇に関する研修を受け、マニュアルも作成され、プライバシーや人格の尊重に取り組んでいるが、慣れ親しんだ関係でつい言葉遣いなどへの配慮が緩むことがある。	利用者や家族と成り立っている信頼関係を再認識し、常に人生の先輩、一人の人格として尊重することが望まれる。誇りやプライバシーの確保について代表者、管理者、全職員で具体的に考え取り組むことに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定ができるような会話の工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットの日課に無理に合わせることなく過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に家族と共に行かれたり、化粧品等職員と馴染みのお店に行き購入している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、楽しみのある食事を提供している。食事の準備・片づけは個々の能力に応じていただいている。		ホームで作られる無農薬野菜の提供や、利用者個人の能力に応じた調理作業への参加などを行っている。管理を要する食事内容に関しては併設の医療機関から指示を仰ぎ、食事内容を検討し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量・形態・水分量を提供している。一人ひとりの記録表を作成し情報共有を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあったブラシ・洗口剤を用いて口腔ケアを行っている。訪問診療時適切な指導を受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を把握し、トイレでの排泄を行っている。失禁時は声掛けの時間を調整し改善に向けて努力している。布パンツで過ごしていただき、おむつに頼らない介助を行っている。		入院などによりおむつを使用する利用者に関しても、ホーム入居後に排せつパターンの再獲得を行い、おむつから布パンツに戻る排せつケアの徹底を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて服薬や水分量を増やす、食物繊維、乳酸菌の食物を摂る、運動を取り入れる等して予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の健康状態に配慮して足浴、清拭を行っている。時間帯や好みについても希望を取り入れ、本人のペースでゆっくり入浴できるように支援している。		利用者の希望に合わせて、入浴回数や午前・午後の調整を行っている。入浴を拒む利用者にも落ち着いて清潔保持ができるように信頼関係を築きながら支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた就寝時間である。夏はエアコンを使用したり、冷却シートを使用しクーリング、冬は湯たんぽや加湿器を使用して安眠につなげている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書をセットし職員が確認しやすい状態にしている。かかりつけ薬局に副作用、残薬の件で気軽に相談できている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの以前の暮らしや習慣を把握し、可能な限り本人の生活を大切にしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、商店街へ買物、道の駅、スーパーのイトインでお茶、月1外食等を定期的に行っている。		1日数回行われる散歩や日用品の買物などを毎日行っており、知人とのホーム外での交流や、家族の協力を得ながら希望に合わせた外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	わかば	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布所持利用者は買物の際は自分の財布からお支払していただく。所持金を毎日確認、記録し家族面会時報告している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	生活の様子を添付した葉書(年賀状含)を用意して書いていただき、親戚、友人とのやり取りを大切にしている。携帯を持参されている利用者は、いつでも電話しやすい環境を提供している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、リビングにはソファを置き静かで清潔感があり、居心地よく過ごせる工夫をしている。	外出時の写真や四季を感じることで花、健康に関する掲示を行い心地よく過ごせるように工夫がなされている。食堂には大きいカレンダーがあり、ホームのひと月の流れを利用者にもわかりやすくしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の好きな場所、時間に仲の良い利用者とお茶したり、食後居室で一緒にテレビを観られたり、ゆっくり居室で寝られたり、飼い猫と遊ばれたり、ビールを呑まれる等思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の馴染みのある家具を持参されており、配置等も本人や家族の希望に沿った配置である。	個人のなじんだ家財の持ち込み、家族の写真の掲示などにより、家庭に近く、落ち着いた環境で生活を送ることができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレには手すり、室内段差がなく、車いすの利用者も移動しやすいスペースである。			